

5-1 「港たんけん大発見！」 四日市中央小学校（三重県）

実践の概要

テーマ	四日市港
対象とした社会資本	港、潮吹き防波堤、臨港橋、末広橋梁 等
学習のねらい（単元目標）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の発展のために尽くしてきた人や地域に遺る近代化遺産「四日市旧港港湾施設」「末広橋梁」などに関心を持つ。</li> <li>・港の見学を通して、追求していきたいことを考え、調べ活動を行うことができる。また、調べたことをまとめたり、製作活動を行ったりして、わかりやすく発表することができる。</li> <li>・地域の近代化遺産のすばらしさに気づくとともに、四日市港の発展のために尽くしてきた先人の知恵や思いを知り、ふるさとを愛する豊かな心をもつことができる。</li> </ul>
展開の概要 ・右図に示す流れで学習の展開を行った	
実践経過	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちは、関心を持った対象を調べれば調べるほど、また人と関われば関わるほど、活動への意欲をふくらませていった。</li> <li>・中には、意見の食い違いから分裂しそうな班もあった。</li> <li>・ディスカッションは、子どもたちに変な難しいものであったが、どの子どもも多くの人の前で発表できた喜びは大きかったようである。</li> <li>・子どもたちがふるさとのことに関心を持ち、よくしていきたいと思う子が増えた。</li> </ul>
主な支援内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・船上からの見学に対する支援</li> <li>・出前講師、ゲストティーチャー</li> <li>・資料等の提供 等</li> </ul>

実践報告 / 四日市市立中央小学校（三重県）

「港」「近代化遺産」を題材とした  
総合的な学習の時間の取り組み  
「港たんけん、大発見！」

指導者： 村田 明彦、 野呂 仁美、 中村 泉

## 1 . はじめに

本校は、平成7年4月、市内で初めて旧中部東小学校と旧納屋小学校が統合され、設立された学校であり、教育目標は、「豊かな心をもち、生き生きと活動する子どもを育てる」である。

中央小学校が開校して以来、子どもたち一人ひとりが個性を発揮し、子どもたち自身が進んで学び、考えてほしいと願い、研究を積み重ねてきた。その研究の中で、ふるさとの様々な事象に出会い、多くの地域の方々から学ばせていただくことが数多くあった。

本校は、四日市港、商店街、郵便局、JR四日市駅、国道23号線、市役所といった社会的な環境に恵まれている。また、四日市祭りの山車や諏訪太鼓の保存・継承に携わっている人、和菓子職人、手作り豆腐名人、竹細工名人など、自分の生き方にこだわりをもち、様々な分野で活躍をしている人も多い。これらの事象や人々とのかかわりを題材にした学習は、子どもたちにとって身近なものが多く、地域を見つめ直したり、地域にかかわる自分自身を見つめ直したりするきっかけとなり、将来、子どもたち自身が豊かな人間として成長していくために大変有意義な生きた学習になりうると考えている。

そのため、本校では、ここ数年、研究主題を「ふるさとを愛し、自らの生き方を創造する子どもの育成」とし、地域を愛し、自らがふるさとの未来のために何ができるのか、このことを自分なりに考えたり、行動に移したりできる子どもの育成をめざしてきた。そして、地域を中心とした人々とのかかわりを重視した単元構想を子どもたちと考えながら、総合的な学習を進めてきた。

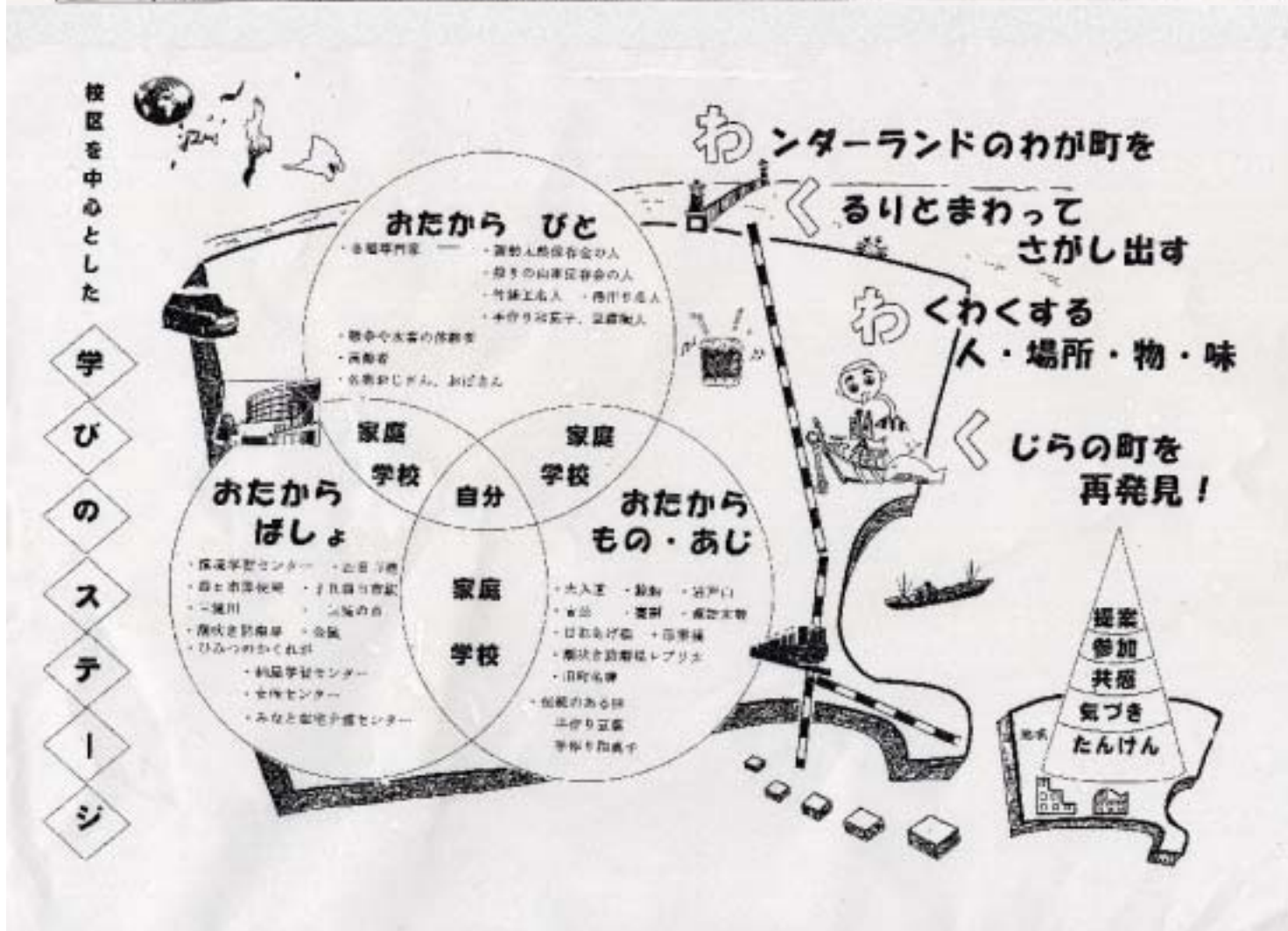
## 2 . 年間カリキュラム

本校における総合的な学習の時間の年間のカリキュラムに関しては、「地域や学校の特色を生かした課題」を内容とし、児童の興味・関心を考えながら編成をしている。今年度のカリキュラムは次頁の表の通りである。

☆ 校区の特性・児童の興味関心をもとにトピック学習も行う

～ふるさとを愛し、自らの生き方を創造できる子どもの育成～

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
6年生 (110)	《福祉・人権》 人への思いやりの心をはぐくもう (保育園・幼稚園の訪問) -25h					伝えよう！私の町の伝統活動～53h 太鼓・祭りについて調べ、これからの祭りを調べよう ブラジル・ペルー・中国について調べよう				《福祉・人権》 私たちにできる福祉を考えよう(老人から学ぼう) -20h 自分史を作ろう -12h 英語学習			
5年生 (110)	町の名人発見！！ ～名人の様子を知ろう～ -35h					町の名人発見！！ ～わたしが見つけた〇〇名人を探知ろう～ -35h				町の名人発見！！ ～名人のこれからについて考えよう -30h 英語学習			
4年生 (105)	郷たんけん大発見！ 「なかよし」の子と仲よくなろう -40h					最後にやさしい町づくり ～いっぱい知ろう！三滝川調査隊～ -40h				共に生きる 近くの国韓国を調べよう (生活自然文化) 英語学習 -20h			
3年生 (105)	わたしたちの町自慢 -40h みんなで育てよう					お祭りのひみつをさぐれ(観劇・大入道・普公・徳利・岩戸山) -40h				英語学習 -10h -10h			
スマイル組活動→「花で町をかざろう大作戦」(スマイル遊び) 英語学習 (YED訪問指導)										国際理解教育月間 (2月) 英語学習 (PSYED訪問指導)			
「外国人見学の国について知ろう」→仲間づくりの観点から1学期に外国人の友達の国について学習する													



### 3．実践例：第4学年「港たんけん、大発見！」

#### 3・1 単元の目標

- ・ 地域の発展のために尽くしてきた人や地域に遺る近代化遺産「四日市旧港湾施設」「末広橋梁」などに関心をもつ。
- ・ 港の見学を通して、追求していきたいことを考え、調べ活動を行うことができる。また、調べたことをまとめたり、製作活動を行ったりして、わかりやすく発表することができる。
- ・ 地域の近代化遺産のすばらしさに気づくとともに、四日市港の発展のために尽くしてきた先人の知恵や思いを知り、ふるさとを愛する豊かな心をもつことができる。

#### 3・2 単元設定の理由

##### (1) 子どもの願いや要求から

見るもの、聞くものに強い興味と関心をもつ子どもたち。学年が進むにつれ、行動範囲も広くなり、校区の様々な場所に友達と出かけている様子が見え始める。

これまで、商店街のこと、祭りのこと、諏訪太鼓のこと、そして、町の中にある建物や町で出会う人のことなど、この町の特徴やすばらしいところをたくさん発見することができた。さらに、町の様子について話し合う中で、今まであまり子どもたちの意識の中にはなかった四日市港旧港についての話題が出始め、昨年度、港見学をしたことも手伝って、港に対する関心が高まってきた。

高砂町・稲葉町・尾上町・千歳町にまたがる四日市港旧港は、稲葉三右衛門が長い年月と莫大な私財を投じて修築工事を行ったことで有名であり、周辺の施設の中でも、潮吹き防波堤は多くの子がその存在を知っている。現在は、近くに企業の施設が建ち、防波堤としての役割は果たせなくなっているが、潮吹き穴のあるユニークな形は子どもたちの興味をそそり、その仕組みに関心させる子どもも多い。

また、その近くにある臨港橋や末広橋梁などの跳ね上げ橋も、大変興味深い。船が通過する時、橋が跳ね上がる仕組みになっている臨港橋、貨物列車が通過する時に橋が下りる仕組みになっている末広橋梁。大変特徴のある橋であるにもかかわらず、実際に橋を見た子や橋を通ったことのある子はほとんどなく、驚くことに、その存在すら知らないのが現状である。跳ね上げ橋のことが話題に上がった時、どこにあるのだろう、どのように動くのだろう、どういう仕組みになっているのだろうと、様々な疑問がわき起こった。そのため、これらの施設は、これから子どもたちが自分なりの課題を見つけ、興味をもって調べたり、深く追求していったりすることができる題材となりうるであろうと思われる。

また、潮吹き防波堤や末広橋梁は、いずれも国の重要文化財に指定されており、特に、末広橋梁は現役最古の鉄道可動橋でもあることから、これらの近代化遺産について学習し、先人の知恵や産業の発展のために尽くしてきた人々の思いにふれることは大変意義深いことである。さらに、本単元は、子どもたちが、自らのくらしと港とのかかわりに目を向けることもでき、ふるさとに愛着を感じることや、ふるさとの将来について考える機会をもつことも期待できる。

## (2) 活動の発展性

稲葉三右衛門が港づくりに関係のある人だということは知っていても、大変な苦勞があったことは知らない、跳ね上げ橋というのを見たことがない、その存在すら知らないという子どもたちが多いため、知っていくという活動が大切になる。そのため、港の見学をしたり、多くの人とかかわったりしながら調べ学習を進めさせていきたい。そして、学習を進めていく中で、さらに疑問が生まれ、追求していこうとする意欲が高まっていくものと思われるため、学習の過程で生まれた気づきや疑問を大切に、行動につなげさせていきたい。

また、一つ一つの建造物の仕組みを調べたり、調べたことをもとにして模型などをつくってみることも、興味深い活動となり、より一層理解を深めていくことにつながっていくものと思われる。特に、公共の建造物については、学習の中で、建造物を造ろうと考えた理由(ねがい)、建設技術、機能性やデザイン、地域開発にどのように寄与するのか(貢献)といった視点を取り入れていくと、活動の幅が広がり、より深い調べ学習ができると思われるので、必要に応じて考えさせていくようにしたい。

さらに、四日市港の歴史やその発展に尽くしてきた人々について調べていくことで、自分たちが住む町が港を中心にしてどのように変わってきたのかということや、発展にかかわってきた先人の地域に対する思いを知り、ふるさとに誇りを持ち、ふるさとを大切にしていこうとする気持ちを育てていけるものと考えている。そして、これからの港が果たす役割や自分たちが住む町の発展などについても考える機会とすることができることを期待したい。

## (3) 教材の価値

四日市港は、明治32年に特別輸入港として開港し、平成11年8月に100周年を迎えた。現在、中部圏を代表する貿易港として国際経済や地域産業に大いに貢献しているが、港がここまで発展してきたのは、先人の働きがあったからである。四日市港は、天然の水深と波静かな入り江にめぐまれていたため、幕末から明治初年にかけて商業港として大いに栄えたが、安政の堤防決壊による砂の流入が次第に蓄積され、明治5年には、入港も困難なほどになってしまった。このような状況を憂えた稲葉三右衛門が私財を投げ打って港の修築に取り組み、11年という歳月をかけて現在の旧港を完成、近代港湾の基礎を築いたという話はあまりにも有名である。毎年行われる「四日市祭り」が、まず、三右衛門への献花式から始まるのもこの所以である。

三右衛門の努力によって、四日市港は近代港として復興したが、明治22年の暴風雨によって突堤は破壊されてしまうことになる。この復旧作業で大きな役割を果たしたのが、愛知県出身の服部長七である。長七は、「虎屋饅頭店」を営んでいたが、饅頭を作るためにはきれいな水が必要であると考え、水の濾過や水道工事を手がけるために、自ら「敲屋」(たたきや)となり、井戸工事の工夫から、人造石を発明した。コンクリートが普及していなかった当時、水中でも固まる「人造石」の技術は、潮吹き防波堤の築港工事には欠かせないものであった。

現在も、旧港内を包み込むように緩やかに湾曲した姿を見せてくれる潮吹き防波堤。長さ

199m、高さ4.7mの大堤と3.7mの小堤が並行して二列になる構造で、港外側の小堤を越えた海水が大堤で受け止められて、両堤の間にある溝にたまり、大堤に設けられた五角形の水抜き穴から港内側に流れ出すようになっている。この水抜き穴から海水が港の内側に吹き出す様子から、「潮吹き防波堤」の名で親しまれてきた。このような堤防は、他に例を見ない、大変珍しいものである。

入港した船は、運河を通過して運河沿いの倉庫へと荷揚げをしていく。今でも相当数の船が運河を行き来し、運河に架けられた臨港橋や末広橋梁が可動している。臨港橋は、平成3年に造り替えられたハイテク跳ね橋（初代は昭和7年に竣工し、現在のものは3代目）で、往時の四日市港を偲ばせる千歳運河との調和を図り、港の発展の歴史をとどめるとともに、地域の人々に永く親しまれるように、周辺景観との調和に留意されたものとなっている。また、末広橋梁は昭和6年に造られ、JRの貨物列車が運行する現役最古の鉄道可動橋である。特に末広橋梁は、第二次世界大戦や伊勢湾台風、さらに近代化の波にも耐えてきたという歴史があり、今でも、一日に6往復、セメントや工業材料を積んだ貨物列車が通過しているという貴重な近代化遺産である。

このように、校区には、私たちの生活の礎となった近代化遺産があり、その一つ一つが特徴のある構造と歴史をもっている。子どもたちは、自分たちの目で見、多くの人と出会って、これらの歴史や仕組みを調べていく中で、地域のすばらしさに気づくことができるであろう。また、四日市市の産業発展のために活躍してきた港の歴史やその周辺の施設についての学習を深めていくことで、私たちの生活と港とのかかわりに関心をもつこともできる。さらに、四日市港の発展に尽くしてきた先人の働きや仕事への工夫を知ることができ、みんなのために物事を成し遂げようとした思いに共感し、ふるさとを愛する豊かな心を育てていくことができるものとする。

#### 4. 単元展開の構想図（全 46時間）

気 づ く	わたしたちの町のすばらしさを発見しよう。(3)
	祭りの山車（大入道・菅公・岩戸山・鯨船・かめ割り）、諏訪太鼓、太鼓や山車の保存会の人、和菓子職人、とんぼ博士、稲葉三右衛門、商店街、郵便局、JR四日市駅、三滝川、慈善橋市場、運河、コンビナート、四日市港、臨港橋、末広橋梁、潮吹き防波堤

気  
づ  
く  
追  
究  
す  
る  
深  
め  
る  
広  
げ  
る

四日市港を探検しよう。( 5 )

- ・ 潮吹き防波堤とレプリカ、稲葉三右衛門記念碑の見学
- ・ いなば号に乗って港の様子を見学 防波堤、コンビナート、大型船、シーバース、ガントリークレーン
- ・ ポートビルから港の様子を見学 コンテナの積みおろし、モータープール 石炭積みおろし、埋め立て中の港
- ・ 船内で港の歴史の学習

四日市港を探検して、発見したことや不思議に思ったことなどを出し合おう。( 2 )

**潮吹き防波堤**  
 おもしろい形、しくみ  
 長さはどれくらいか  
 誰が造ったのか  
 何のために造ったのか  
 いつ造られたのか  
 服部長七、デ・レーケ

**港**  
 輸出入品  
 ガントリークレーン  
 コンテナ  
 倉庫、工場  
 昔の様子

**臨港橋**  
 はね上がるしくみ  
 信号  
 いつ造られたのか  
 なぜはね上げ式にしたのか  
 管理棟の人と船とのやりとり

**未広橋梁**  
 はね上がるしくみ  
 管理棟の人の仕事  
 貨車のなかみ  
 どこから運ばれてくるか

**稲葉三右衛門**  
 どんな人か  
 港づくりの苦労  
 稲葉町にある家

もっと詳しく知りたいな。自分の課題を考え、調べる計画を立てよう。( 6 )

**潮吹き防波堤**  
 波を弱めるしくみ  
 造った人

**服部長七**  
**デ・レーケ**  
 生涯  
 人造石

**臨港橋**  
 はねあがるしくみ  
 管理棟の人  
 信号と船の往来

**未広橋梁と貨車**  
 はね上がるしくみ  
 管理棟の人  
 貨車、積荷

**稲葉三右衛門**  
 生涯  
 稲葉町の家

**稲葉三右衛門**  
 港づくりの苦労

**四日市港**  
 輸出入品  
 コンテナ  
 ガントリークレーン

**旧港**  
 様々な施設  
 港の歴史

追  
究  
す  
る

港調査隊、活動開始！（４〔ミニ社会見学〕+課外）

- ・もう一度見学をする
- ・町の人にインタビューする
- ・図書館で調べる
- ・四日市港湾工事事務所、四日市港管理組合に行って話を伺う
- ・博物館の秦さんに話を伺う
- ・インターネットで調べる

深  
め  
る



コンテナのなかみを見学



臨港橋がはね上がるころ



博物館の秦さんの説明を聞く

広  
げ  
る



ガントリークレーンの  
コンテナ積みおろしの様子



臨港橋の地下を見学



防波堤に使われている  
「たたき」

ま  
と  
め  
る

調べたことを整理してまとめよう。（１０）

- ・ポスターにまとめる
- ・劇をつかって演じる
- ・紙芝居にする
- ・模型をつかって説明する



臨港橋の模型づくり



劇のシナリオを考え中



模造紙にまとめ発表の練習



未広橋梁の模型づくり



劇の衣装づくり



潮吹き防波堤の模型づくり



発表「港たんけん、大発見！」 (6)

ま  
と  
め  
る  
  
発  
表  
す  
る

お世話になった方も招待して、ポスターセッション形式で行う。



**潮吹き防波堤**  
模型をつくりしくみを説明



**服部長七**  
劇をした後、クイズで確かめ



**末広橋梁**  
橋・貨車・船の模型をつくり説明



**臨港橋**  
模型をつくりQ&Aとして橋のしくみを説明



**稲葉三右衛門の生涯**  
紙芝居と模造紙にまとめ生涯を説明



**四日市港コンテナ**  
荷物の積みおろしの様子を模型で実演



**旧港**  
ペープサートで旧港ができるまでを年表で追っていく



**稲葉三右衛門の港づくり**  
三右衛門が港をつくるまでを劇にして発表



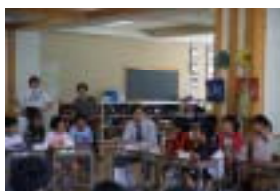
他のグループの発表を見てわかったことなどをメモ

今までの活動を振り返ってみよう。(10)

ふ  
り  
返  
る

ディスカッションをしよう

先人の働きについて 校区に残る近代化遺産について これからの港について  
『わたしたちの港』『未来の港』を描こう



お世話になった方にも参加していただきました。

「港は自分たちの生活に欠かせない。」  
「いろいろな人のおかげで  
今の四日市の町がある。」  
「自分たちの町に重要文化財が  
あるなんてすごい。」

## 5 . 実践の概要

### 【気づく】段階

本校ではこれまで総合的な学習を進めるにあたり、地域を中心とした人々とのかかわりを重視しながら、そのなかから題材をとりあげてきた。そこで、まず自分たちの校区にあるすばらしいもの、すばらしい人、すばらしい場所などについてあげていった。

- ・祭りで登場する大入道や鯨船
- ・諏訪太鼓
- ・神社
- ・郵便局
- ・JR 四日市駅
- ・三滝川
- ・和菓子屋さん
- ・商店街
- ・四日市港
- ・稲葉三右衛門
- ・いつも町を掃除してくれている人
- ・潮吹き防波堤

子どもたちからはいろいろな意見があがった。そのなかで祭りや太鼓、また商店街、駅、郵便局などは実際に参加したり、日常生活でよく利用したりするもので、子どもたちにとって身近に感じられるものである。また子どもたちは昨年度は和菓子屋さんについて取り組んできた。そこで今年度は、自分たちの地域にありながら自分たちがあまりよく知らない港について取り組んでいこうということになった。

港について知っていることといえば稲葉三右衛門、3年生の社会見学で見た潮吹き防波堤やポートビルといった程度であった。そこでそれぞれが四日市港について自分なりに調べたり、聞いたりしてやることにした。家の人に聞いたり、インターネットで調べたり、なかには直接港に行き行って写真を撮ってきたりといろいろな方法で調べて、それらを一度出し合った。

- ・潮吹き防波堤
- ・ポートビル
- ・稲葉三右衛門
- ・服部長七
- ・ヨハネス・デ・レーケ
- ・はね上げ橋（臨港橋・末広橋梁）
- ・たたき

自分たちがこれまで知らなかったものや、初めて聞く人物の名前、さらには橋がはね上がるということなど、子どもたちにはとても興味深いものが見えてきた。

そこで全員で実際に港へ社会見学へ出かけることにした。その際、四日市港の歴史に詳しい四日市市立博物館の秦さん、また四日市港湾工事事務所にご協力をいただいた。秦さんから四日市港の歴史や稲葉三右衛門のことなどについて説明を受けたり、末広橋梁を貨車が実際に通るところを見たり、臨港橋がはね上がっている下を船で通過したり、さらにはポートビルから四日市港の様子を見たりと実際に目の前で見ることによって、子どもたちは驚きを感じたり興味・関心を広げていくことができた。

### 【追究する、深める、広げる】段階

社会見学に行き見てきたこと、気づいたこと、わかったこと、感じたことなど自分が興味・関心を持ったものから課題を見つけ追究していくようにした。また同じ課題を持ったもの同士で次のようにグループをつくった。

- ・潮吹き防波堤
- ・臨港橋
- ・末広橋梁
- ・四日市港（コンテナ）
- ・旧港
- ・服部長七とデ・レーケ
- ・稲葉三右衛門の生涯
- ・稲葉三右衛門の港づくり

まずグループで何についてもっと調べたいか、そのためにはどんな方法で調べればよいかなどを考えさせた。その後もう一度それぞれのグループごとにミニ社会見学に出かけた。見学に行く場所がグループによって異なっていたので、保護者にも協力を呼びかけた。今度はそれぞれのグループで見学場所を絞って行ったことで、前回よりも、自分たちの疑問について迫ることができた。また見学に行く前にそれぞれのグループで調べたいこと、聞きたいことなどを、あらかじめ質問用紙にまとめ送ってあったことで、より詳しい回答や説明をしていただくことができた。

また普段では決して見ることのできないもの（コンテナのなかの荷物、臨港橋の地下の様子、博物館に保存されている資料など）を見たり、前回船の上から見たり、話だけで聞いたりしていたものを、別の角度から見たり、実際に触れてみたりすることができた。貴重な経験をしたことで、どのグループも自分たちが調べてきたこと、見てきたことを、どのように伝えようかということについて大変意欲的に考えていくことができた。



ヘルメットをかぶって四日市港の倉庫のなかや積みおろしの様子を見学させてもらいました。



博物館では四日市港の歴史にかかわる資料や模型を見たり、秦さんから説明を聞いたりしました。



橋が上がり船が通過するところや、広末橋梁を貨車が通る様子を近くで見ることができました。

#### 【まとめる、発表する】段階

まとめる作業に入る段階から、グループのメンバー一人ひとりが活躍し、次の課題を明らかにしていくために、毎回その日の活動のめあて、その日の取り組みの様子、感想や次時のめあてを全員に書かせていった。それらを教師が目を通すことで、それぞれのグループの活動の様子を把握することもできた。まとめ方はそれぞれのグループで伝えたいことを、どのような方法でまとめるのが一番伝わるかを考えさせ、自由に取り組みさせた。模型をつくって説明する、模造紙にまとめる、劇にする、紙芝居にする、ペープサートにする、クイズ形式にするなどさまざまな方法でまとめていった。まとめていく活動のなかで、一番伝えたいことが明らかになっていないグループについては、教師もグループに入って一緒に考えていくように心がけた。

発表はポスターセッション形式で行った。それぞれのグループを前半と後半の二つに分けて、前半の者が発表している間に後半の者が他のグループの発表を見て回るようにした。またこれまでの活動でお世話になった方や、保護者、他の学年、担任以外の教師なども招待して行った。どのグループも自分たちが調べてきたことを自信をもって発表する姿や、他のグループの発表に興味を持って耳を傾ける姿が見られた。

発表の最後に質問の時間を設けたが、質問に対して答えられなかったり、曖昧なものもあった。そのため発表後にもう一度、それぞれのグループでさらに調べておけばよかったことなどを考えさせ、さらに調べたことを発表するミニ発表会の時間も設けた。



まとめ活動の様子



発表の様子

#### 【ふり返る】段階

自分たちが調べてきたこと、また他のグループの発表を見てわかったことなどから、自分たちが港についてどんな風に考えを持つことができたか、またどんな風に考え方がかわったかなどについてディスカッションをさせた。このようなことはこれまで経験したことがなかった子どもたちであったので、まず潮吹き防波堤・末広橋梁・臨港橋などの近代化遺産について、稲葉三右衛門について、これからの四日市港についての3つのテーマに絞り、自分の考えを書かせた。それらをもとに、これまでの活動とは別に新たなグループをつくり、そのグループの中でお互いの考えを述べたり、他の子の考えを聞いたりした。その後、全体の場でディスカッションをおこなった。ディスカッションにもこれまでお世話になった方にも参加していただき、子どもたちが活動を通して港や、それらに携わってきた人々について感じたこと、わかったことなどを聞いていただいた。子どもたちからは「今まで自分たちの町に重要文化財があるなんて知らなかった。」「稲葉三右衛門や服部長七たちがいたから今の四日市の町がある。」「港から自分たちの生活に関わるものが輸入されたり輸出されたりするから、とても大事なもの。」などといった意見が聞かれた。発表しただけでなく、その後それぞれが港についてじっくりと考えることで、自分たちのこれまでの生活と結びつけて考えるきっかけとなってよかった。



## 6 . 実践を終えて

「わたしたちが住んでいる町にこんなにすごいものがあったなんて！」

わが町に、「おたからびと」「おたからばしょ」「おたからもの・あじ」がたくさんあり、そのことを少しずつ追究してきた子どもたちであるが、社会見学で初めて臨港橋や末広橋梁がはね上がる様子を見た時は、知らない間に驚きの声を上げていた。

その後、驚きの声はなぜだろうという様々な疑問の声に変わり、子どもたちの自主的な活動が始まった。子どもたちは、関心をもった対象を調べれば調べるほど、また、人とかかわればかかわるほど、活動への意欲をふくらませていった。

特に、調べたことをまとめたり、模型を作ったりする活動においては、「こうなっていたよ」「こうしたい」などと真剣に意見をたかかわせている姿があちらこちらで見られ、中には、意見の食い違いから分裂してしまいそうな班があったりして、実に様々なドラマが展開されることとなった。

さらに、他学年の子をはじめ、お世話になってきた方々や保護者に発表をする活動においては、自分たちが大切につくりあげてきたものを、いかにすればわかってもらえるかを考えながら、苦労をして、それでいながら、自信をもって楽しんで取り組むことができた。

活動の後半に行ったディスカッションは、子どもたちには大変難しいものであった。今まで学習してきたことをふり返り、自分の考えを組み立て、班の中での発表で班員の意見を聞いてさらに考えを確かなものにし、多くの人前で発表する。こんな体験は初めてという子がほとんどで、活動を行った時は、大変な緊張ぶりであった。残念ながら、友達の意見を聞いて、それに対する考えを述べられるのは限られた子になってしまったが、どの子も、多くの人前で発表できた喜びは大きかったようである。

四日市の町が大きく変革し、自立・発展への道を歩もうとするきっかけをつくった稲葉三右衛門。国の重要文化財に指定され、今もなお現役で働き続ける末広橋梁。わたしたちの生活をささえ、世界の国々との貿易や様々な交流の玄関として活躍する四日市港。

「この町っていいな」

「港や橋を大切にしていけないと・・・」

そんな気持ちをもつ子が増えたことは、この活動を子どもたちと共につくりあげてきた意義があったといえるだろう。これからも、子どもたちが、ふるさとのことに関心を持ち、もっと身近に感じられるような活動を進めていきたいと思う。

### 《評価にかかわって》

本校では、わくわく学習（総合的な学習）で子どもたちにつけていきたい力として、次頁の表のように考え、学年に応じた力をその子なりに伸ばしていくことができるよう、支援をしている。

本題材のねらいは前述した通りであるが、「港たんけん、大発見！」という総合的な学習において、子どもたちにつけさせていきたい態度や力を「わくわく学習の力群」に沿って子どもたちの実態に即して考えたものが、〔 〕から始まる文章である。

子どもたちは、一人ひとり程度の差こそあったが、どの活動にも前向きに取り組もうとする姿勢が感じられ、その子なりの変容が見られた。

## わくわく学習の力

### (1) 課題を発見する力

- a. 町の人・場所・ものに気づくことができる。
- b. 気づいたり発見したりしたことの中から疑問を見つけることができる。
- c. たくさんの疑問の中から、調べたいことを見つけることができる。
- d. 自分が追求したい課題を決めることができる。  
地域の発展のために尽くしてきた人（稲葉三右衛門、服部長七）や地域の近代化遺産（潮吹き防波堤、末広橋梁、臨港橋）を知り、それらに関心をもつ。  
それらの見学や学習を通して、自分が追求していきたい課題を決める。

### (2) 調べる力

- a. 町の人・場所・ものを直接体験する中で、諸感覚を使って調べることができる。
- b. 知りたいことを家族や地域の人に聞くことができる。
- c. 調べたい目的にあった対象を見つけ、必要な情報を取り出すことができる。  
調べたいことを明らかにするために、どこへ行けばよいか、誰に聞くとよいか、何で調べたらよいかなどを計画し、必要な情報を得る。

### (3) 考え、判断する力

- a. 町の人・場所・ものに意欲的にかかわっていくことができる。
- b. 調べたことをもとに、自分なりの考えをもつことができる。
- c. 調べたことを比較検討しながら、考えを整理することができる。
- d. 調べたことを多面的に捉え、総合的に判断することができる。  
書籍資料・インターネットからの情報・聞き書き・写真などの様々な資料を比べたり、見直したりして発表に必要な資料（疑問に思っていたことで分かったこと、新たに発見したことや気づいたこと、人に出会わなければ分からなかったことなど）を選ぶ。  
また、資料に対して、自分の考え（気づき、願い、疑問など）をもつ。

### (4) 表現する力

- a. 町の人・場所・ものの中で見つけたことを伝えることができる。
- b. 見つけたことや調べたことを、いろいろな方法で表現することができる。
- c. 調べたことや考えたことを、相手に分かりやすく表現することができる。
- d. 考え判断したことを、相手に理解してもらえるように的確に表現することができる。  
調べたことや考えたことなどを、相手に分かりやすく表現し、伝える。

### (5) 活かす力

- a. 好きな町の人・場所・ものを増やすことができる。
- b. まちの様子や人を見つめることができる。
- c. 町や社会をより良くしようとすることができる。
- d. 自分の考えを提案・実践しようとするすることができる。  
自分が調べ、まとめてきたことを、いろんな人に伝えようとする。  
近代化遺産や四日市港を大切にしようとする。  
わが町のすばらしさを見つけようとする。

子どもたちの活動の様子や課題に対する考え、活動の中で困っていることなどを把握する一助として、また、わくわく学習で子どもたちにつけていきたい力がどの程度獲得されてきたかということなどを知る方法として、ワークシートを利用するようにしてきた。

ワークシートについては、課題づくりのワークシート、調べたことをまとめるワークシート、その日の活動をふり返るワークシート、すべての活動をふり返るワークシートなど、その時間のねらいにかかわれるような形式のものにするようにした。

総合的な学習では、子ども自身が自己の学習についてふり返り、次の活動をより良いものにするために考え実践していこうとする自己学習力の向上に向けた評価が大切であると考え。

そこで、自分の学習の道筋がいつでも分かるように、資料（書籍資料・インターネットからの情報・写真・パンフレット・ゲストティーチャーからの資料など）、ワークシート（学習課題や学習計画を記したもの・自分の考えや班での話し合いを記録したもの・活動のふり返りを書いたものなど）をファイルに綴じさせるようにしてきた。ワークシートについては、すぐにファイルには綴じさせず、教師があらかじめ目を通し、子どもの活動の様子を把握したり、現在行っている活動で課題に迫っていくことができるのかを、次時の活動までに班員と話し合ったりするなど、次時の活動に向けて軌道修正をはかることができるようにしていった。ただ、毎回きめの細かいかわりかできたわけではなく、活動の途中で子どもと思考錯誤しながら活動を進めていくことも多々あった。

また、これらの綴じられた資料の中から発表に必要な資料を選び、それらを活用して、発表の内容を構成したり、模型作りをしたりすることができるようにしてきた。

さらに、課題を同じくする者同士で班が編成してあったので、班で話し合う場を多く設定し、このような進め方でよいのか、これからの活動をどう進めていくのか等を、必要に応じて教師も話し合いに参加しながら考えさせていった。

【資料】

5 / 8 (水) 社会見学「港をたんけんしよう！」

町のすばらしさを見つけ合い、港のことをもっと知りたいということから、一人ひとりがこんなことを見てきたいと思うことを前もって考え、港探検を行った。探検時の感想やこれから調べていきたいことなどを書いた。

①

新吹きの防波堤 - 船橋橋 - 架設橋のあ

見たいものや聞きたいことなど

新吹き防波堤のあ

なは、なんで49なの？

はね上げ橋は、どうやって上げるの？

218m 桁：アームがある

14で作った

はね上げ橋は思ったより高く上っていた。見上げるぐらい高かった。潮吹き防波堤のものもを見せてもらったとしても勉強になった。はね上げ橋は正方形の形のブロックがおおむねに橋が上からいておもしろい。しんごうがあって青赤の2種類があって赤はとまど青は

逆めた。た。はね上げ橋のしんごうが、ぼいわかった。ぼくは思ったより知らない事勿がいらぼいあった。その知らない事をこれから勉強していきたくてです。そして、こんどはぼくがみんなに教える人になりたいです。潮吹き防波堤のこと、りんこうばしのこと、末広橋りょうのことなどをいっぼい調べてどんどん発表していきたくてです。知らないことが多いより、知っていることが多いほうがいいのでこれからどんどん勉強して港はかせになりたいです。

② 末広橋りょう

1. 協力してメンバー

よく聞く調べてほしいことや作ってみたいものなど

真ん中のは、何秒で上げ下げできるのか、何で上げているのか。

2. 調べ方 (○○へ見学に行き写真を撮る、△△さんに聞いて調べる、という本を用いるなど、くわしく書く)

じまいに見に行く。し、している人に聞く。もけいを作、とみる。本で調べてみる。

3. まとめたや聞きのしかた (みんなにわかりやすく調べることであるように考える、びきにする、図表を決めてインタビューの様子を調べる、もけいを作った図表から調べる、エニチュアを作った調べるなど)

もけいを作

5 / 14 (火) 社会見学後、調べていきたいことを出し合い、同じような課題をもつ子同士が班をつくり、これからみんなで追求していきたいことなどを相談してまとめた。[もっと深く調べていくといいこと、橋梁を守り続けてきた人、操作をする人の苦勞など、人にかかわる課題などを加えていくとよいことを朱書きして示唆した。]



5 / 23 (木) 班員で調べ学習を開始したが、自分たちの力では解決できない課題について、JR貨物四日市の駅長さんに伺うことになった。そこで、駅長さんに質問する内容を班員で話し合っまとめた。

④ 末広橋りょう 五つてお聞きしたいこと

(5月23日)

1. 末広橋りょうは、かまつ列車しかとおらないんですか。
2. 末広橋りょうは、何分ぐらいで上がるんですか。
3. 末広橋りょうの条件は何処ですか。
4. もしも号をそうさする人はたれですか。
5. 列車の中身は何(どこから来たの)ですか。
6. 列車は1日何回とおるのですか。
7. 列車が通る時こくはいつも決まっていますか。
8. 今までに困ったことはありましたか。
9. 台風などでも橋の上げ下げをさするのですか。

5 / 30 (木) 課題別社会見学を行い、見学をしたことや教えていただいたことなどをもとにして、わかったことや気づいたことなどを絵や文章に表した。

④ (5月30日) 末広橋りょう


式センサー(人こ)うをかえる。  
 りんこは2しを上げるのは2。  
 5時か5時まで  
 日2日休み、3台め。  
 安全をかいて人して水り上げる。  
 車がながながかとおらないとか1は人く  
 らうしている。  
 (うた)えきがおれるほど強い。  
 時間のちうせいもちまみしい。  
 50ぐらいで自分かとお  
 上がってから(下)下がってから(上)  
 身分の大きさを2か2をかきめる  
 水面から橋までうん50mぐらい。  
 末広橋りょう  
 おりるときたンリシリツリと音かなる。  
 高さ16m  
 1000サビか出るので高ぶかめる。  
 10ぐらいで10回とる。  
 車かとおるときは1し上げていって、でたらは上げ  
 げを  
 1874 872 1-0807

④ (5月30日) 末広橋りょう

★絵や文章であらわそう。

モーターにかりかを入せず、おもしろにかか入  
 る。列車かとおる時間ほだいておきお  
 ている

1日24回列車かとおる。  
 てきてから70年ぐらいたた。  
 1日8回上げ下げしている。  
 2かか入、ている  
 せめんともほこんでいる  
 1日寺に1回ほしる。  
 とおたにさうにある。  
 コンピョーターで上げ下げしている  
 (ん)うほない  
 コンピョーターのセンサー



6/5(水)、6/6(木) まとめる活動に入り、その日の活動のめあてや活動の様子、反省、次回のめあてなどを書いた。  
 [教師は、一時間の授業中、一つの班の活動だけにかかわっていることはできないので、その日の活動のふり返りを毎時間させていった。そして、課題が生じた場合は、教師がワークシートに書き込みを行い、アドバイスをしていった。]

⑤ 国語の授業、大発表！ - 四日市中央小学校	
めあて	ポスターを飾りあげる。
今日の活動の様子	ポスターを作りあげた。みんなの力で、ますます楽しくなってきた。
反省や次回のめあて	今日は、ポスターがかんせいしました。 (みんなの力で)できたポスターです。 みんなの気持ちの入ったポスターです。 次の回は、もけいをかんせいさせます。くわしくわかりやすくみんなで作りたいです。
めあて	もけいをかんせいさせる
今日の活動の様子	発表の練習をした。(けいをかんせいさせました)
反省や次回のめあて	発表の練習をして初めは、声がかんせいし合えなかった。でも、すこすこずつ、すこすこ合うようになってきた。10回15回20回とやまのようになら練習をした。いろいろな質問にみんながうすうす答えていた。うれしかった。

⑥ (6) 国語の授業	
めあて	本広橋りょうをさがせ
今日の活動の様子	(1) 質問されたこととまだ言いたいこと。 せたい「回」は重りの重さは何と何と質問されました。でも、ぼくたちはわかりなかつたので「やういよう」「やういよう」ともめをいしましたがわかりませんとこたえました。
反省や次回のめあて	(2) 本広橋りょう 大橋橋りょうについて思うこと (3) 本広橋りょうの橋の上を渡る時間下がる時間は、なせちがうの。 (4) いな重三右衛門について思うこと。 いな重三右衛門がいなかったらどうなっているだろう? そうをうがっさません。たぶん、家もすくないし、おな町になつていてしょう。いな重三右衛門が港をつたつたので、今、ぼくたちがいる場所ができたんだらう。
今日の活動の様子	多まてわからなかつたことが全部わかつた。たぶん、もしも、いちばんわかつたのは、コメントの中は、よくして、いうことです。
反省や次回のめあて	これからは、ぼくたちが、孝文をうる人になりたいです。

6/18(火) 発表会の時、見学者から様々な質問が出されたため、これからさらに調べていきたいことなどを書いた。



### 《今後の課題》

教師は、子どもたちにこんな力をつけさせていきたいという考えをもっているが、子どもたちにきちんと知らせ、自己評価をさせていく機会をとることができなかった。今後は、授業と評価の一体化という観点から、評価基準を明らかにし、自己評価を活動の全体計画の中に位置づけ、自己の学習について見つめ直す活動をより具体的にさせていきたい。また、お互いのファイルをもっとオープンなものにして、子ども同士や保護者からの他者評価をする機会を増やしたいと思う。そして、学習課題が子どもたちの育ちを確かなものにするものであったか、子どもたちの多様な活動が展開できたかといった、わたしたち教師自身の評価も忘れてはならないと思う。

さらに、子どもたちの活動が多岐にわたり、十分な支援を行うことができなかったところもあったため、先を見通して、子どもたちに十分かわることができるような指導体制を考えていく必要があると思う。

また、本題材は、子どもたちにとって大変関心のもてるものではあるが、校区から少し離れており、子どもたち同士で調べ学習に訪れるには危険が伴うこともあるため、保護者や関係諸機関の方々の協力が是非とも必要になってくる。今回、多くの方々にお世話になり、活動を展開していくことができたが、活動途中でこんな活動を取り入れたいと思っても、日程調整が難しい場合があった。そのため、先を見通した活動計画の立案と早めの日程調整をしていく必要を強く感じた。